

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

1.	文学部・人文科学研究院	研究 1-1
2.	教育学部・人間環境学研究院	研究 2-1
3.	法学部・法学研究院	研究 3-1
4.	経済学部・経済学研究院	研究 4-1
5.	理学部・理学研究院	研究 5-1
6.	医学部・医学研究院	研究 6-1
7.	歯学部・歯学研究院	研究 7-1
8.	薬学部・薬学研究院	研究 8-1
9.	工学部・工学研究院	研究 9-1
10.	芸術工学部・芸術工学研究院	研究 10-1
11.	農学部・農学研究院	研究 11-1
12.	比較社会文化研究院	研究 12-1
13.	言語文化研究院	研究 13-1
14.	数理学研究院	研究 14-1
15.	システム情報科学研究院	研究 15-1
16.	総合理工学研究院	研究 16-1
17.	生体防御医学研究所	研究 17-1
18.	応用力学研究所	研究 18-1
19.	先導物質化学研究所	研究 19-1
20.	情報基盤研究開発センター	研究 20-1

歯学部・歯学研究院

I 研究水準	研究 7-2
II 質の向上度	研究 7-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、研究論文の数に減少傾向がみられる。しかし、歯学研究院において活発な研究活動が行なわれていること、また論文等を通して研究業績の学内外への発信が行われていることから、歯学研究院における研究が学内外に広く認められている。研究は、「口腔組織の再生、再建医療研究」及び「口腔健康科学」を重点研究プロジェクトの柱におき、講座横断的かつ起動的な研究システムを構築してきた。また、若手研究者自立的な研究環境整備促進事業次世代研究スーパースター養成プログラムを通じた学際的研究を進展させ、九州大学 COE（リサーチコア）にて、研究活動、研究費申請、人材流動化、講演会等の対外活動の支援を行い、全学的に連携して国際的歯学教育研究も推進している。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金やその他の研究費が維持されていることは、優れた成果である。

以上の点について、歯学部・歯学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、歯学部・歯学研究院が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 研究成果の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、重点研究プロジェクト「口腔組織の再生・再

建医療研究」におけるインパクトファクター（IF）10以上の原著論文数、総説は4件、IF5以上では19件に上り「口腔健康科学」におけるIF10以上の原著論文数は3件、IF5以上では16件に上る。また、両研究プロジェクトの促進してきた講座横断的な研究成果も多く認められ、独創性の高い活発な研究活動が行われていることは、優れた成果である。

以上の点について、歯学部・歯学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、歯学部・歯学研究院が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成20年度及び平成21年度に係る現況を分析した結果、平成16～19年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第1期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成16～19年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

[判断理由]

「大きく改善、向上している」と判断された事例が2件、「高い質（水準）を維持している」と判断された事例が1件であった。

上記について、平成20年度及び平成21年度に係る現況を分析した結果、平成16～19年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第1期中期目標期間終了時における判定として確定する。